



福岡城 鴻臚館まつり
おほりまつり振興会

おほりまつり武者行列に出発の藤香会会員

3月25日福岡城址に設けられた「福岡城鴻臚館まつり(さくらまつり)」の演舞台を半日お借りして、「福博文化芸能の集い」として藤香会の友好8団体による演武・琵琶・舞い・杖術などが披露されました。会場周辺には長政公400年大祭の幟が立てられ、会員は藤色の法被を着て、出演者や観覧の人たちへの説明に当たりました。会場ではこの日のために作成した小冊子「筑前福岡藩の歴史」を1,500冊配布し、好評を博しました。



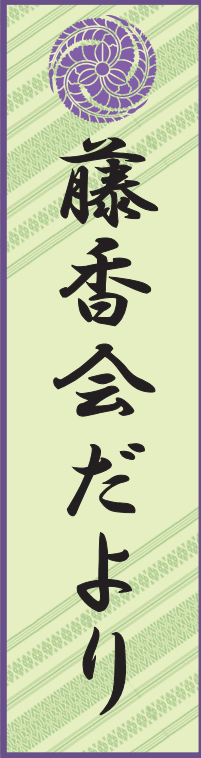
柳生新影流長岡宗家による四方払い



福博文化芸能の集いでのも
会長挨拶

3月25日福岡城址に設けられた「福岡城鴻臚館まつり(さくらまつり)」の演舞台を半日お借りして、「福博文化芸能の集い」として藤香会の友好8団体による演武・琵琶・舞い・杖術などが披露されました。会場周辺には長政公400年大祭の幟が立てられ、会員は藤色の法被を着て、出演者や観覧の人たちへの説明に当たりました。会場ではこの日のために作成した小冊子「筑前福岡藩の歴史」を1,500冊配布し、好評を博しました。

長政公没後400年の記念行事を挙りました



第35号

令和5年7月1日発行

発行者

一般社団法人 藤香会

事務局

092-724-0007

発行責任者

毛屋 嘉明

000部発刊した。一般の市民の人たちに郷土の歴史を知ってもらうために、福岡城周辺の公民館、市の施設、学校、図書館に置いております。

大祭のパスケースの寄贈を受けました

長政公没後400年を記念して賛助会員である株式会社サスイ織物より、黒田家の藤巴の家紋と藤香会の銘が織り込まれたパスケースが大祭にちなんで400個寄贈されました。博多織を代表する献上柄のケースで名刺サイズのカードを保管できます。会員全員に小冊子とともに郵送されました。

5年度の総会が開かれました



総会であいさつされる
山崎会長

年に1度の総会は5月29日(日)午前11時より新装なった警固神社・社務所ビルで開催され、賛助会員4社を含め会員61名が出席しました。山崎会長は挨拶の中で、コロナ感染も収まりつつあり、長政公没後400年記念行事も会員の協力によって、滞りなく実施できたこと、発刊した小冊子も好評であることなどを報告され、今後とも黒田家歴代藩主の顕彰事業や文化活動としての行事を行なって行きたいと考えているので会員の皆さんの一層の協力をお願いしたいと述べられました。議案は執行部提案とおり承認されました。特に、本会の財政基盤を強化するため、令和6年度より年会費を7,000円に改定させていただきました。また今年度は理事の選任時期ではありませんが、三野原理事が仕事に都合でやむなく辞任されたこと、事務局の体制は昨年と同様であることが毛屋副会長より報告されました。

続く講話は天本理事による「福博八景」と題して、博多の歴史書「石城志」に書かれている博多の八景、「福博古地図」の中に記載されている荒津八景の説明があった。

忠之公370回御忌法要が執り行われる



忠之公法要で挨拶される長高様

命日の2月12日墓所のある東長密寺で16代当主長高様臨席のもと会員54名が参列して執り行われました。長高様は挨拶の中で、今年初代藩主長政公の没後400年にあたり藤香会としても諸行事を企画され、また福岡と黒田の歴史についての冊子を上梓されていると聞いています。これを機に少しでも多くの方に福岡の歴史を知ってもらいたいと話されました。長高様は、法要終了後に重立った理事と近くの妙楽寺を訪ねられ、忠之公の肖像などを拝観されました。

如水公420回御忌法要が執り行われる



如水公420回御忌法要で焼香する会員

4月中頃を気候を思わせる命日の3月20日、崇福寺本堂で如水公の法要が長高様の臨席を得て執り行われました。姫路黒田武士顕彰会からも4名の参列があり、会員は山崎会長以下58名の方が参詣し焼香をいたしました。

本堂での法要のあと、裏手にある黒田家墓所の如水公の墓前に僧侶の読経の中、焼香をいたしました。

小冊子「筑前福岡藩の歴史」を発刊

黒田氏の筑前入国以前の由緒と入国後の福岡発展の礎となつた黒田家の軌跡を描き綴つた約60ページのB5版の小冊子を3月1日に初版4、



以前からの由緒と入国後の福岡発展の礎となつた黒田家の軌跡を描き綴つた約60ページのB5版の小冊子を3月1日に初版4、

1冊のB5版の小冊子を3月1日に初版4、

会員クリック③



宮崎宮氏子総代 責任役員
詩吟朗詠 錦城流師範
木下 昭弘
(雅号 城玄)

私は生まれも育ちも博多です。当家は先々が昭和の初め、県南の八女より家業発展のため博多に進出しましたが、昭和16年に事故と戦争の激化によって工場を閉鎖、戦後現在地で食油の卸売を始めました。

私は高等学校卒業後、家業に就きました。高度成長期の物流の変革に伴い個人事業の継承が難しくなり平成24年を以て店をたたみました。

現在は地元のため自治会長を永年務め、神社のお世話をしております。

また趣味の詩吟・古民具・古書の収集をしています。居宅は黒田家墓所のある崇福寺の近くにあります。

平成25年、妻との海外旅行の折、毛屋ご夫妻がおられ共に旅行を楽しみました。その後野村望東尼150年祭にて再会し、副会長の熱心な勧めもあって藤香会に入会しました。

会の行事には努めて参加させていただき、昨年の忘年会では平尾山荘での高杉晋作と望東尼の題でのお話と和歌と詩を詠う名譽を頂きました。本年も長政公400年大祭に黒田武士の詩舞・吟詠を披露させていた

できました。

詩吟についてお話をします。漢詩を詠うのが詩吟、和歌を詠うのが朗詠です。詩吟朗詠錦城流は流祖が筑前琵琶より派生し、楽器の五線譜にのせ、詩の起承転結に則って作譜・節調されています。作者の詩意、人となり、生き様、時代背景を汲み取り、音楽的感覚によって作曲されます。吟者は流の指導者のもと精進して皆さまへの発表となります。吟には吟者の人生観、体験などが反映されます。「吟道は人生」とも言われる所以です。

また公民館でも歴史講座を折々に行っており、機会があれば黒田家の歴史と地元の歴史のお話をしたいと思います。

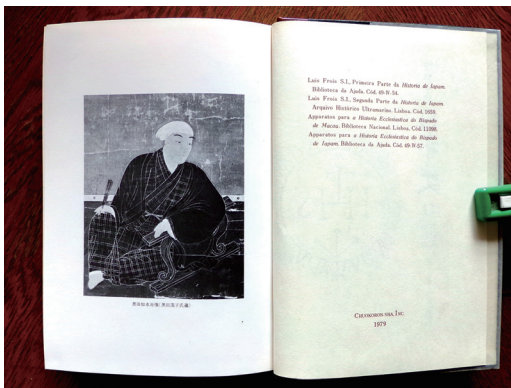


「フロイスの日本史」、全12巻のうち巻11に如水公の肖像が表紙見返しに掲げられ、「黒田茂子氏蔵」と書かれている。黒田家14代当主夫人が、この本が出版された昭和54年に所蔵されていたもので、現在は福岡市博物館にある。

ポルトガルのイエズス会より布教のため日本に派遣されたルイス・フロイスは膨大な報告書を書いてインドのゴア経由でポルトガルに送った。



「フロイスの日本史」巻11



「フロイスの日本史」巻11に掲載の黒田如水肖像

「日本史」というタイトルとはいえ、日本におけるキリシタン布教史ともいえる書物で、当時の武将たちの勢力関係が詳細に書き込まれている。戦国時代といえは信長や秀吉、明智その他の教科書に登場するような有名な武将たちの勢力争いをイメージするが、キリシタン大名の大夫宗麟の親戚筋である田原氏、一万田氏、志賀氏との勢力争い、宗麟の子吉統との確執・軋轢など、小規模な武将たちの間でも争いがあつたことが克明に記される。地方史をよく理解した上でないと読むのに苦労する。

キリシタン大名には殿(教名にはDon)を付け、異教の大名は呼び捨てにするどころか、悪魔と呼ぶ。仏僧や加藤清正などは散々な書き方でキリシタン最大の敵とされる。

当時の小寺官兵衛は Don Simeto, Codera Quambiyedono Josuy, また長政は Cainocanni, Don Damiao と記述されている。そのほかにクロタ殿 (Curadano), クロ殿 (Curodono, Curondono) とも書かれている。

官兵衛は1582年頃蒲生飛騨守、高山右近、小西行長らによってキリスト教に改宗したとの記述もある。

「日本史」というタイトルとはいえ、日本におけるキリシタン布教史ともいえる書物で、当時の武将たちの勢力関係が詳細に書き込まれている。戦国時代といえは信長や秀吉、明智その他の教科書に登場するような有名な武将たちの勢力争いをイメージするが、キリシタン大名の大夫宗麟の親戚筋である田原氏、一万田氏、志賀氏との勢力争い、宗麟の子吉統との確執・軋轢など、小規模な武将たちの間でも争いがあつたことが克明に記される。地方史をよく理解した上でないと読むのに苦労する。

会員消息

箱島八郎さん

随筆「文箱の中」で第3回子母澤寛文学賞・「愛猿記」賞大賞受賞(令和4年11月23日)

武部自一さん

先祖の武部小四郎を通して、小四郎が主導した福岡の変の実相を描いた「福岡の変と建部武彦」を出版(上下2巻)(令和5年2月)

松村緑さん

自分の生い立ちから福岡市役所職員時代・退職後の活動までを描いた「昭和女性のど根性人生」を出版(令和5年3月15日)

★新規入会員紹介

令和5年

1. 一般会員

- 大林 憲司・中島千恵子
- 鷹取 宏尚・樗村 貴宏
- 浦上 雅彦・内田 壽一
- 馬頭 和子・松本 達雄
- 高木 滋直・黒田 康行
- 浦江 卓司・橋田 文也
- 濱名 照章・吉田 知弘

2. 賛助会員 41企業・団体

編集後記

コロナも感染が収まりつつあり、日常生活も平常に戻ってきております。藤香会の諸行事もほぼ例年並みに戻りましたが、今年は長政公没後400年を記念する行事もあり、会員の皆さまの協力を得て、無事に遂行することができました。今後とも会員とともに進んでゆきたいと思っています。どうか一層のご協力をお願い申し上げます。

(天本記)